

2020年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	国際教育ボランティアにおける「深い学び」を促進する教育モデルの開発
研 究 所 名	実践女子大学国際教育研究所
設 置 開 始	2018. 4. 1
設 置 終 了	2022. 3. 31

■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

本年度については、本研究の第3の目標である3. 事前研修プログラムの開発〈汎用性の検討〉を中心に取り組む予定であった。具体的には、9月に、昨年度実施を見送った教材作成協力者の現地派遣を行い、教材の活用方法について検討し、さらにその結果を踏まえて、2月に実際アカデミックボランティアに参加する学生に、現場で教材を使った教室内活動を行ってもらう予定であった。その後、読み聞かせ教材を使った教授活動が、どの程度有効であったか、新たな発見があったか、さらに今後どのように役立てたいかについて面談調査を行い、事前研修プログラム開発に必要なデータを収集する予定であった。しかしながら、コロナ禍の影響により、9月の現地派遣が実施できなかったこと、さらに3月に予定していた学生派遣も中止となったため、今年度は実質足踏み状態となってしまった。

■現在までの達成度

3つの研究目標のうち、2. 漢字学習を目的とした読み物の開発まで達成している。

2. 漢字学習を目的とした読み物の開発

具体的には、協力者2名（以下教材作成協力者）に作成を依頼し、2019年9月までに40教材、2020年3月には、さらに122教材を完成し、小学校1年生から中学校2年生を対象とする読み物教材をほぼ完成した。同月には、同2名の協力者をワデル・ランゲージ・アカデミーに派遣し、現地研究員と共に、作成した教材の活用方法について検討する予定であったが、コロナウイルス感染による社会情勢危機により、派遣を来年度に先送りすることにした。

■次年度以降の研究（見込み）

来年度については、今年度実施を見送った、本研究の第3の目標である3. 事前研修プログラムの開発〈汎用性の検討〉を中心に取り組む。具体的には、9月に、本年度実施を見送った教材作成協力者の現地派遣を行い、教材の活用方法について検討を行う。さらにその結果を踏まえて、2月に実際アカデミックボランティアに参加する学生に、現場で教材を使った教室内活動を行ってもらう。その後、読み聞かせ教材を使った教授活動が、どの程度有効であったか、新たな発見があったか、さらに今後どのように役立てたいかについて面談調査を行い、事前研修プログラム開発に必要なデータを収集する。

■研究活動における成果

- (1) 研究成果（雑誌、学会発表、図書等）
- (2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

2020年11月本学常磐祭にて経過報告を行った。